

平成 20 年 7 月 10 日
パリ産業情報センター
駐在員 社本 朗

一般調査報告書

ジャパンエキスポから垣間見るフランスにおける日本アニメ事情

2008 年 7 月 3 日(木)～6 日(日)にフランスにおける日本関連最大イベントの一つ「ジャパン・エキスポ Japan Expo」が Paris Nord Villepinte (パリ・ノール・ヴィルパント見本市会場)で開催されました。

マンガ、アニメ、ゲームを中心とした日本のポップカルチャーを紹介した 340 企業・団体が集まり、4 日間で約 13 万人の入場者を記録するなど大盛況でした。

フランスは世界の中でも日本のアニメーションが紹介されたもっとも古い国だと言われており、国内の映画、テレビでもフランス語に吹き替えされた日本のアニメーションは日常的に見ることができます。

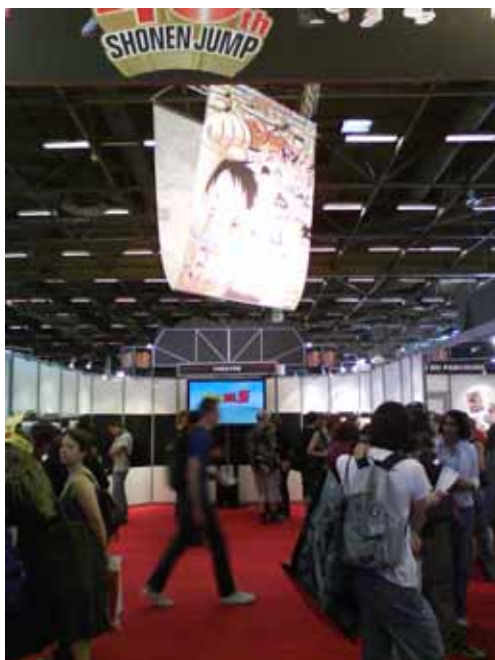
ただ、フランスのテレビで日本のアニメを放映する際には、様々なフランス独自の規制をクリアすることが求められています。

< ジャパンエキスポ 2008 >

「ジャパン・エキスポ JAPAN EXPO」は、今回で 9 回目、毎年 7 月フランス・パリ郊外の展示会場約 20,000 m²を使って行われるマンガ、アニメ、音楽・モードなどの日本のポップカルチャーを最大の目玉とした展示会です。

日本のポップカルチャーが中心ですが、ささやかながら書道や武道、折り紙などの日本伝統文化のデモンストレーションブースや参加イベントも行われています。

会場ではマンガやアニメ DVD、各種アニメキャラクターグッズなどの販売や、ビデオゲーム



の体験、日仏漫画家のサイン会やセミナー、日仏歌手コンサート、コスプレ・ファッションショー、柔道・剣道などのデモンストレーションなどが行われていました。

会場内は、入場者の約 70%を占める 25 才以下の若者であふれ、アニメのキャラクターのコスプレに身に包んだ入場者もたくさん見かけました。

主催者によると入場者のうち約 70%はフランス国内からで、残り 30%はベルギー、スイスなどの外国からの入場者であるとのことでした。

今では毎年恒例の人気イベントですが、初回の 1999 年には来場者はわずか 3000 人でした。しかし、

その後、来場者は毎年増え続け、今年約 130,000 人にまで至りました。

独自のキャラクターグッズや服などを販売していたあるフランス企業の出展者によると、ジャパンエキスポはアニメなどに触発された若者向けのグッズ、服をPRするには最適の場所で年々入場者も増え、自社のマーケット戦略の中では重要になってきている、ということでした。

< フランスにおける日本アニメ事情 >

映画部門

フランスは欧州においては日本映画の商業上映が最も盛んな国です。

ちなみに 2006～2007 年中に放映された主な日本のアニメ映画は以下のとおりです。

タイトル	観客動員数 EU27 内合計(人)	(フランス)	(イタリア)	(英国)
ゲド戦記	305,095	(244,190)	(22,787)	(22,044)
時をかける少女	44,812	(不明)	(不明)	(不明)
パプリカ	28,359	(25,712)	(2,647)	-
鉄コン筋クリート	20,679	(20,679)	-	-

出所：欧州視聴覚研究所(European Audiovisual Observatory)

主なアニメ映画の観客動員数の内訳をみても、フランス人が他の国に比べて日本アニメ映画への関心の高さ、親しみの深さを持っていることが分かります。

私の知っているフランス人によると、多くのフランス人は日本へのアニメ映画に対して、「一般的にストーリー性がよく、画面がきれい。」という印象をもっているようです。

CNC(Centre national de la cinématographie:フランス国立映画センター)は、良質の映画の普及やアメリカの商業主義映画によるフランス市場の独占を避けるため、映画として質が高いと認められる作品やその作品を上映する映画館等に対して上映補助を出す制度があります。

日本のアニメ映画であっても条件にかなえば補助が受けられる可能性があります。

CNC のホームページ

<http://www.cnc.fr/Site/Template/T6B.aspx?SELECTID=511&id=113&t=1>

テレビ部門

EU では文化価値の保護と普及を目的にして、ニュース、スポーツ、広告などを除いて EU 域外の番組のテレビでの放送時間を規制する制度があり、日本のアニメはその規制に基づいて放映されているのが現状です。

この規制は、国境のないテレビ指令 ("Television without Frontiers" Directives) (89/552/EEC、97/36/EC により改正)といわれ、番組編成において欧州製番組比率を 50%以上を確保すること(クォータ制)が各国テレビメディアに求められています。

フランスでは、この規制を受けてテレビ番組の 60%は欧州製、そのうち 40%はフランス語のものでないといけないと規定されています。(政令 86-1067,1992 年)

このような中でも日本アニメの人気は根強く、「ポケモン」、「おじゃ魔女ドレミ」などの番組が放映されています。

ただ、近年は欧州製のアニメも数多く作成されており、日本アニメの放映時間はそれと比べて決して高いものではないようです。

< 今後の日本アニメのフランス市場での可能性 >

EU 各国の中でもフランスはもともと映画に対する関心が高い国です。年間延約 1 億 7,750 万人(2007 年:速報)が映画館を利用しており、その人数はドイツの 1.4 倍に達しています。

ドイツの人口がフランスの人口(約 6,300 万人)の 1.3 倍であることを考慮すると、フランス人の映画好きが良くわかると思います。

一方、テレビの分野でも、地上波放送とは別に、フランスはビデオ=オン=デマンド(VOD: 視聴者が見たいビデオや番組を自分の好きな時にテレビで見られるシステム)がヨーロッパ内で最も発達しています。

現在 32 の VOD のサービスがフランス国内で営業しており、かつケーブルテレビも広く普及しています。

今回、ジャパンエキスポに参加して、フランスの若者層には映画、テレビ、マンガの影響で間違いなく日本のポップカルチャーは受け入れられ、広く普及していると感じました。

フランスが、日本のアニメを古くから受け入れてきた歴史を持っていること、フランス人の映画への関心度の高さ、テレビにおける VOD の普及率やケーブルテレビ局の多さ、フランス若者層の日本アニメへの親しみ、などを考えあわせると、日本アニメなど日本コンテンツ産業にとって、フランスは潜在性の高い市場の一つであると感じられました。